

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①漢字や計算などの各教科における基礎的な知識。 ②既習の知識をもとにして、問題を解く技能。	③自分の考えについて、理由を言葉や数を用いて記述する力。 ④資料等を用いて、自分の考えが伝わるように発表・表現する力。	⑤自己効力感（自分への自信、自己肯定感）。 ⑥児童が自ら進んで学習に取り組んでいく素地。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④	①書かれている事柄の順序を整理しながら、文章を読む指導をする。 ④登場人物の気持ちを読み取り、音読の仕方を工夫させる。 ④自分が経験したことを、順序に気を付けながら話ができるようにする。	
算数	①、③、⑥	①具体物を用いた活動を通して、数についての感覚や長さなど量の大きさについての感覚を豊かにする。 ③児童の「なぜ」「どうして」が生まれるような切り返しの発問をしていくことで、思考を深められるようにする。 ⑥導入において、生活経験や既習経験、興味関心、問題意識、知的好奇心を高める発問をする。	
生活	①、④、⑥	①見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を取り入れる。 ④言葉や記録カードなどによって表現する機会を設け、気持ちを伝え合い交流する場を工夫する。 ⑥身近な生き物や植物との関わりが深められるよう飼育、栽培を積極的に取り入れる。 ⑥児童が身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を充実できるように校外での活動を取り入れる。	
音楽	③、⑥	③音楽を形づくっている要素をもとに、曲や演奏の良さを感じ取ることができるようにする。 ⑥音楽に合わせて体を動かしたり、リズム打ちをしたりして、友達と気持ちを合わせて演奏する楽しさを感じられるようにする。	

<p>図画工作</p>	<p>①、④、⑥</p>	<p>①表現と鑑賞を相互に関係させて資質・能力を育成できるよう、造形活動と鑑賞活動とが往還するような学習過程を設定する。</p> <p>④材料コーナーや道具コーナーを設け、児童の発想をもとに表現を工夫できるような場づくりをする。</p> <p>⑥題材における発想のきっかけを明確にし、児童の「表したい」を引き出す導入を工夫する。</p>	
<p>体育</p>	<p>①、④</p>	<p>①各領域の運動における技能の基礎・基本を明確にし、そのための多様な動きを経験できる場を設定し、力いっぱい運動させる。</p> <p>④児童に多くの声をかけることで言葉かけの例を示し、児童同士で交流が図れるようにする。</p>	
<p>英語活動</p>	<p>①、④</p>	<p>①英語を用いた体験的な活動を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。</p> <p>④英語を通じて、身近で簡単なことについて聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力・英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の素地を養う。</p>	
<p>特別の教科 道徳</p>	<p>⑤、⑥</p>	<p>⑤よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせる。</p> <p>⑥身近な事例を踏まえ、人として、してはならないことは行ってはいけないという一貫した方針をもち、毅然とした態度で指導していく。</p> <p>⑥児童が問題意識をもち、意欲的に考え、主体的に話し合えることができるよう、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて、発問、話し合い、書く活動、表現活動などを工夫する。</p>	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①漢字や計算などの各教科における基礎的な知識。 ②既習の知識をもとにして、問題を解く技能。	③自分の考えについて、理由を言葉や数を用いて記述する力。 ④資料等を用いて、自分の考えが伝わるように発表・表現する力。	⑤自己効力感（自分への自信、自己肯定感）。 ⑥児童が自ら進んで学習に取り組んでいく素地。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②、④	①辞書を活用する機会を増やし、語彙力を高める。 ②中心となる語や文を捉えながら文章を読む指導をする。 ④自分の思いや考えを話す機会を設け、事実と自分の考えを明確にしながら話ができるようにする。	
社会	①、③、④、⑥	①地域ごとの特色、地図記号の意味を理解させるために、地図帳や教材・教具を活用した取組を行う。 ③自分の考えを書いたり、話したりする機会を増やす。 ④自分たちが地域とどう関わっていくべきなのか考えさせ、表現する機会を増やす。 ⑥都道府県の関心を高めるため、地図帳を活用する。 ⑥ICT機器を活用した授業の工夫に取り組み、関心・意欲を高めさせる。	
算数	①、②、⑤	①具体物を用いた活動を通して、長さや重さなど量の把握に対する感覚を豊かにする。 ②言葉や式、数直線など多様な表現方法で数量関係を捉え、既習事項を活用して課題解決ができるようにする。 ⑤適用問題、振り返りの時間の充実を図る。	
理科	①、③、④、⑥	①観察活動を通して、実物にふれる機会を増やす。 ③課題に対して予想を立てさせ、自分の考えを根拠に基づいて説明できるようにさせる。 ④結果を話し合ったりまとめたり考えを発表したりさせる。 ⑥動物や植物、太陽の様子、体のつくりや空気、水、金属など、身近に見られる事象や変化に対する疑問をもたせ児童の関心を高める。	

音楽	①、③、⑥	<p>①リコーダーの運指や音色作り、発声など基本を定着させる。</p> <p>③音楽を形づくっている要素をもとに、曲や演奏のよさを感じ取ることができるようにする。</p> <p>⑥歌詞の意味を考えたり、曲の特徴を感じ取らせたりすることで教材の魅力を十分に感じ取り、すすんで音楽活動を行えるようにする。</p>	
図画工作	①、④、⑥	<p>①用具、道具の使用に関する安全指導の徹底を図る。</p> <p>④作品や表現のよさや面白さを伝え合う活動を重視し、鑑賞と表現が一体となった学習を展開する。</p> <p>⑥導入において、材料や技法の可能性を広げるような出せ方を工夫し、児童の柔軟な発想を引き出す。</p> <p>⑥様々な身近材料を用意し、自由に使える環境をつくることで、児童の発想を広げる。</p>	
体育	①、④、⑤	<p>①各領域の運動における技能の基礎・基本を明確にし、動きを高めさせる場を設定し、全力で運動する機会を多くする。</p> <p>④児童に多くの声をかけることで言葉かけの例を示し、小グループの活用を積極的に行うことで児童同士の交流が図れるようにする。</p> <p>⑤できる喜びを感じ、粘り強く取り組む児童を育成していくために、スモールステップを設定した単元計画を作成する。</p>	
外国語活動	①、④、⑥	<p>①言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声や語順等の違いに気付いた上で、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにする。</p> <p>④外国語を通じて、身近で簡単なことについて、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p> <p>⑥外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	
特別の教科 道徳	④、⑤、⑥	<p>④自分と他者との考えを比べ、考えを深める展開となるように工夫する。</p> <p>⑤教材を自分との関わりでとらえ自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望がもてるような終末となるように工夫する。</p> <p>⑥教材に対する興味や関心を高める導入を工夫する。</p>	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①漢字や計算などの各教科における基礎的な知識。 ②既習の知識をもとにして、問題を解く技能。	③自分の考えについて、理由を言葉や数を用いて記述する力。 ④資料等を用いて、自分の考えが伝わるように発表・表現する力。	⑤自己効力感（自分への自信、自己肯定感）。 ⑥児童が自ら進んで学習に取り組んでいく素地。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	③、④	③考えをまとめる際には、短い言葉で端的にまとめる活動に繰り返し取り組ませる。 ④新聞記事の紹介やお勧めの本など、事実を基に自分の意見を伝える機会を設け、根拠を分かりやすく伝えさせる。 ④登場人物の相互関係や心情を描写を基に捉え自分の生き方や考えについて友達と交流することで意見を深める。	
社会	①、②、③、⑥	①資料集や地図帳を活用し、理解を定着させる。 ②資料を活用して、情報を多角的に読み取り整理させる。 ②時代ごとに特徴を捉えさせ、比較を通して時代の変化を考えさせるようにする。 ③読み取った情報から、土地の様子や環境と国民生活との関連について自分の考えをもたせる。 ⑥政治について関心を持たせるために、ニュースを取り上げたり、新聞を活用したりする。 ⑥ICT機器を活用した授業の工夫に取り組み、関心・意欲を高めさせる。	
算数	③、④、⑤	③言葉や式、数直線などの表現で数量関係を捉え、言葉と図と数式を互いに置き換えることができるようにする。 ④小グループで話し合う活動を通じて、自分の考えを伝える機会を増やす。 ⑤適用問題、振り返りに取り組む時間の充実を図る。	

理科	③、④、⑥	<p>③観察・実験の結果から、分かったことや身の回りに見られる関連性など自分の考えを考察としてまとめさせる。</p> <p>④課題に対して予想を立てさせ、自分の考えを、根拠に基づいて説明できるようにさせる。</p> <p>⑥物の溶け方や振り子の運動、電磁石の働き、月の満ち欠けや燃焼、空気の組成など、生活の中で活用されている場面と関連付けて関心を高める。</p> <p>⑥実験の詳細や計画など、調べたいことや目的に応じて、自分たちで条件設定を考えさせる。</p>	
音楽	②、④、⑥	<p>②互いの歌声や音色をじっくりと聴き合い、表現の良さを判断できるようにする。</p> <p>④音楽を形づくっている要素をもとに、曲のよさを感じ取り、作詞者、作曲者の思いにまで目を向けさせる。</p> <p>⑥歌詞の意味を考えたり、音楽の構造・構成などの特徴を感じ取ったりすることで、教材の魅力を十分に味わいながら音楽活動を行えるようにする。</p>	
図画工作	④、⑥	<p>④作品に込められた思いを伝え合う活動を重視し、鑑賞と表現が一体となった学習を展開する。</p> <p>⑥導入において、材料や技法の可能性を広げるような出合わせ方を工夫し、児童の柔軟な発想を引き出す。</p> <p>⑥様々な身近な材料を用意し、自由に使える環境をつくることで、児童の発想を広げる。</p>	
家庭	①、④、⑥	<p>①体に必要な栄養素や調理器具の安全で衛生的な取扱い方を児童によく分かる場所に掲示し、その都度意識させるようにする。</p> <p>④小グループの活動では、お互いの作った物を見せ合いながら意見を交換させるようにする。</p> <p>⑥自分の生活や自分の家族の生活から問題を見いだして、課題を設定することで、自ら進んで学習に取り組めるようにする。</p>	
体育	①、④、⑤	<p>①各領域の運動における技能の基礎・基本を明確にし、動きを高めさせる場を設定し、全力で運動する機会を多くする。</p> <p>④小グループの活用を行い、児童が感じたことや友達へのアドバイスなどを伝え合う場を設ける。</p> <p>⑤できる喜びを感じ、粘り強く取り組む児童を育成していくために、スモールステップを設定した単元計画を作成する。</p>	

外国語科	①、④、⑥	<p>①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読んだり書いたりして外国語の文字、単語、語順などに慣れ親しませるとともに、外国語の音声、語彙・表現を聞いたり話したりする実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けられるように、スパイラルの学習を意識して、既習事項を適時振り返りながら授業を行う。</p> <p>④外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字、単語などを読んだり語順に気付きながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う授業を行う。</p> <p>⑥外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする導入や展開の授業を行う。</p>	検討中です。
特別の教科 道徳	③、④、⑥	<p>③道徳的諸価値に関わる様々な課題について議論を行い自分との関わりで考えることができるように工夫をする。</p> <p>④教材や体験などから感じたこと、考えたことをまとめ、発表し合ったり、話し合いなどにより異なる考えに接し、多面的・多角的に考え、協同的に議論したりするなどの工夫をする。</p> <p>⑥自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して、多面的・多角的に理解できるようにする。</p>	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○数学的な見方・考え方を働かせる授業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な見方・考え方を視点に学習を振り返ることで、達成感や充実感を養い、自己効力感を高める。 ・児童一人ひとりに応じた学習活動を設定し、「わかった」「できた」を実感させる。 ・学習形態を工夫し、児童同士で協働しながら学習に取り組めるようにする。

○児童が計画・運営する活動「集会活動」	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の適切な指導のもと、児童が計画・運営しながら楽しく充実した学校生活を推進する。(委員会集会、プール開き集会、英語集会等)
○児童相互の交流を深め、豊かな心を育む活動「たてわり班活動」	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で最も児童数が多いという特長を生かして、児童の多様な人間関係作り(異学年で活動する場を通して、他者や年下の児童への思いやりのある心を育てる。)を推進する。
○多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う「児童会・クラブ活動」	<ul style="list-style-type: none"> ・協働して取り組み、異年齢集団における人間関係をよりよく形成できるようにする。

家庭教育との連携

○主体的な家庭学習「チャレンジ学習」「デジタルドリル」の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジノート」という家庭学習用ノートを活用し、家庭学習の習慣化に取り組む。興味・関心の高いことから始めて、少しずつでも毎日取り組むことを重視し、児童が進んで学習に取り組むための基礎作りとする。また、デジタルドリルを2年生以上で導入し、個別最適な学習を進めていく。
○家庭や地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りをはじめとした従来の紙面での情報発信だけでなく、学校ホームページの活用やさくら連絡網によるリアルタイムな情報の配信をする。
○学校応援団の充実した活用	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動、校外行事の引率・安全確保、学習補助、環境美化などのボランティア活動を通して、学校と家庭、地域が連携して児童を育成する。 ・生活科や総合的な学習の時間等、地域の教育力を生かした授業づくりを行う。
○近隣の幼稚園、保育園、小中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行う研修会や授業参観会等を通して大石中学校や大石北小学校と連携を図り、小中一貫教育に向けた取組を推進する。 ・学校公開や生活科の学習を通して幼稚園、保育園との連携を図り、小学校入学に向けた心身の準備ができるように情報提供等を行う。